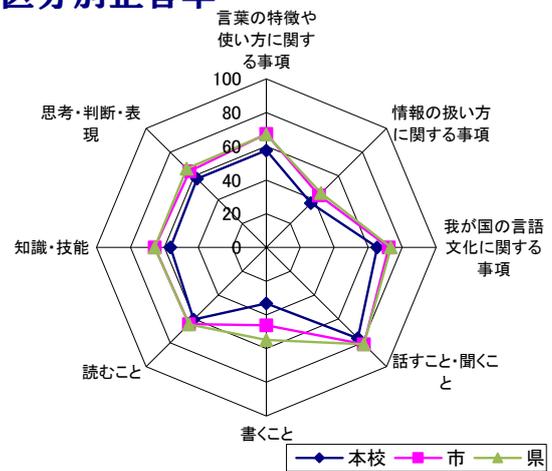


# 宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	57.6	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	37.2	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	65.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	76.2	81.2	81.2
	書くこと	33.3	46.2	54.9
	読むこと	60.5	64.3	64.5
観点	知識・技能	56.4	65.7	65.7
	思考・判断・表現	57.6	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく書く問題の「洋服」の正答率は50.4%で、県の平均と同等程度である。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく読む問題の「都合」の正答率は55%で、県の正答率を22ポイント下回った。	・漢字を正しく読む力が不十分であると考えられることから、新出漢字の学習をする際には、書きだけでなく、音訓読みや熟語の読み方を意識して行うことで、正しく身に付けられるようにしたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、正しく使うことができるかをみる問題の正答率は37.2%で、県の正答率を8.5ポイント下回った。	・普段の授業の中でこまめに辞典を使う機会を作り、正しい使い方を身に付けさせたい。国語辞典を使う学習方法を理解させ、自主学習等を利用し、日常生活でも進んで使う習慣をつけさせていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●漢字のへんやつくりを理解していることに関する問題の正答率は65.3%で、県の正答率より8.1ポイント下回った。	・国語の授業の漢字学習において、漢字を正しく書くことに併せて、読みや熟語、漢字のへんやつくりの学習を行うことで、漢字の書き以外の部分を理解させていきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は85.1%で、県の平均正答率と同等程度であった。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことに関する問題の正答率は70.3%で、県の正答率を13ポイント下回った。	・自分の意見を示す際に理由まで合わせて伝えられる児童は少ない。意見の理由を考えまとめさせる時間を設定することで、意見に理由をつける練習をしていきたい。 ・言葉で伝えることができない児童も多く見られるため、ノートに記述させるようにする。自分や友達のことをまとめ蓄積させることで、聴く力やまとめる力を育てたり、発表の機会を多く作ることで、発言することに抵抗を減らしていく手立てをとっていきたい。
書くこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は23.1%で、県の正答率を19.8ポイント下回った。	・段落など作文の書き方が理解できていない児童が見られることから、国語の授業を通して、基本的な作文のルールを理解させたい。併せて、学習の内容を生かすために、家庭学習などに日記などをだすことで、文章を書く練習を何度も繰り返し、文を書くことになれさせていきたい。
読むこと	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○叙述を基に段落の内容を捉えることができるかを見る問題の正答率は59.5%で、県の正答率を7.5ポイント上回った。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかを見る問題の正答率は57.9%で、県の正答率を4.6ポイント下回った。	・国語の授業では、丸読みや段落読みなど様々な方法で音読を実施し、意見を伝え合ったり感想を伝えたりする機会を設ける。意見の交流から自分の考えを深め、文章をより理解できるようにしていきたい。